

第1章 みなべ町の将来像

1. みなべ町の将来像

みなべ町は農業、林業、漁業が盛んで、特に梅、備長炭、魚介などの特産品の生産・加工を生業とする活力のある町です。また、海、山、川、温泉などの自然資源に恵まれており、これらの自然資源がもたらす、潤い・安らぎ、安心・安全、交流など様々な恩恵を受けています。一方、市街地においては、商業、公益的施設などの都市的機能が集積しており、買い物や食事など日常的なサービスを利用することができます。

しかし、今日の社会経済潮流の変動はこのような恵まれた環境にも大きな影響をもたらしており、このまま推移すれば、地域経済の低迷、自然環境の荒廃、まちの賑わいの消失などを招くことも予想されます。このようなまちの危機を回避し、住む人も訪れる人も元気いっぱい輝くことができるまちにするためには、行政依存型で画一的なまちづくりから脱却し、町民、事業者、行政の協働で、みなべ町の強みはさらに強く、弱みは補うというメリハリのあるまちづくりを進める必要があります。

競争力と自己責任が問われるこれからの時代において、まちの強みを発揮していくためには、地域の資源(人、自然、ノウハウ、土地、資本など)を有効に活用していく必要があります。そこで、この恵まれた環境、基盤を持続的に発展させつつ、新しいまちとしての一体感のもとで人を育み、日本一元気なまちにしたいという想いを、以下のような将来像とまちづくりの柱で表わします。

